

(様式)

平成25年度 津山市立津山西中学校 学校評価書



校長 草加 充康

1 自己評価

I 評価結果

学校研究として協同学習に取り組んだことにより、生徒個々の学びを大切にした授業改善が進んだ。生徒同士が聴き合い・学び合う学習を通して、基礎学力の定着を図っていききたい。宿題の出し方を含め家庭学習習慣の確立が課題である。

大部分の生徒が楽しく学校生活を送れている。一方不登校生徒や人間関係で悩みを抱える生徒に対する細かい支援や規範意識の向上が課題である。

小中連携は、学習と生活の共通項目を決めて取り組んだり、同時期にノーメディアデーを実施したりして連携を推進することができた。

II 分析・改善方策

学校全体としてはまずまず落ち着いた状況にあるが、校則違反や生徒指導上の問題行動が少し出ている。次年度は、個別の指導を粘り強く進めながら、学級・学年全体への指導に力を入れたい。学級経営と道徳授業の充実、協同学習に取り組み、生徒同士の人間関係づくりに努めたい。また、生徒会・専門委員会活動を活性化して、生徒の自治能力を高めながら落ち着いた学校生活・学習環境を構築したい。全教職員で生徒一人ひとりを大切にしたい学力保障・生徒指導をすすめることにより、魅力ある学校づくりを目指したい。

2 学校関係者評価委員会

芦田 國廣	(学校評議員・津山口上町内会長・連合町内会佐良山副支部長)
柿本 裕	(学校評議員・二宮公民館長)
寺谷 守男	(学校評議員・連合町内会城西支部長)
畑達 郎	(学校評議員・津山っ子を守り育てる市民の会津山西ブロック会長)
高橋 泰博	(学校評議員・学識経験者)
長尾 佐知子	(学校評議員・主任児童委員)
政岡 哲弘	(学校評議員・連合町内会院庄支部長)

3 学校関係者評価

学校自己評価と同様の評価が出ている。学習面では小グループを活用した授業に賛同を得ている。生活面は、交通マナー・礼儀などさらに徹底した指導の必要性を指摘された。

4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

- (1) 授業改善・教師の授業力の向上
 - ・学校研究「協同学習」の推進と実践
 - (「県魅力ある授業づくり徹底事業」「市学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業」)
- (2) 学級経営・道徳教育の充実
 - ・津山西中ブロック小中連携の推進(共通指導項目の推進)
 - ・道徳教育・特別活動(学級会・生徒会活動)や部活動を通じた規範意識の育成
- (3) 特別支援教育・教育相談・通級教室の充実
 - ・保護者、教職員を対象にした特別支援教育研修会の実施
 - ・教育相談を充実させ、生徒の悩みの解決支援、不登校生徒と保護者の支援を実施